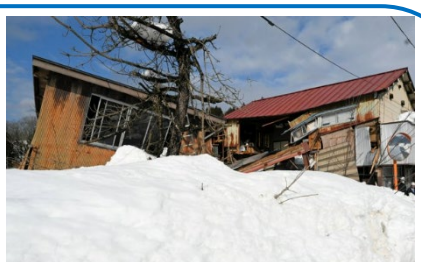
東日本大震災被災地応援部門　たより

轍わだち

２０２６．２．１２　ＮＯ．１８４

２月の大雪！衆院選の投票日は大雪ピーク



車庫部分が倒壊した家屋（新潟県柏崎市）

日本海側を中心に降り続く大雪で、死者が相次いでいる。除雪作業中の事故が大半だが、積雪の重みで倒壊した建物の犠牲になった人もいる。２月６日以降、強い寒気が再び入り、さらなる大雪に警戒が必要だ。新潟県柏崎市では２月３日、民家の車庫部分が倒壊し、住人の男性（54）が倒れているのが発見された。救急搬送されたが死亡が確認され、死因は低体温症だった。

消防によると、車庫の上には1.5メートルほどの雪が積もっており、重みで崩れたとみられている。５日朝、現場の前には、除雪された道路脇の雪も積み重なり、約２メートルの壁ができていた。周辺の民家は屋根に１メートル以上の雪が積もり、雪かき用シャベルで除雪をする人の姿があちこちで見られた。

（朝日新聞 2026 年２月６日より）

雪に埋もれ、運休を余儀なくされているバス停（青森県青森市）

２月７日から太平洋側でも降り続いた雪では、国道での立ち往生も発生し、避難所に身を寄せる人たちも出た。総務省消防庁は、１月 20 日からの大雪で、計 10 道府県の 46 人（９日午前８時半時点）が亡くなったと発表した。福井県敦賀市では２日、70 代の女性が亡くなった。県によると、雪かき中に屋根からの落雪に巻き込まれたとみられる。女性は一人暮らしで、訪ねてきた親族が雪の中に埋もれているのを見つけたという。

（朝日新聞 2026 年２月 10 日より）

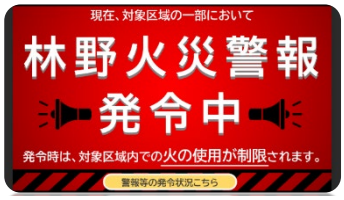
雪国に行ったら覚えておこう！

２月９日：路面が凍結した交差点（烏丸丸太町）

乾燥・強風・油断が重なる２月の
火災歴史と現在が示す教訓

2 月は一年の中でも特に火災リスクが高まる季節です。空気の乾燥に加えて暖房器具の使用が増え、さらに強風が重なることで、火災が発生・拡大しやすい条件が静かに整います。過去を振り返ると、2 月には「乾燥」「風」「人の油断」が重なり、甚大な被害をもたらした火災が数多く発生しています。

近年の例として、2025 年 2 月 26 日に岩手県大船渡市で発生した山林火災が挙げられます。延焼面積は約 3,370 ヘクタールに及び、住宅 266 棟が焼失し、多くの住民が避難を余儀なくされました。冬季の乾燥と強風が火勢を一気に拡大させた典型例です。また、1982 年のホテルニュージャパン火災では、防火管理の不備が重なり 33 名が犠牲となりました。さらに 1772 年の江戸・明和の大火も、乾燥と強風により被害が広がった歴史的事例です。2 月には、ホテル、病院、工場など多様な施設での火災も記録されています。これらに共通するのは「逃げにくさ」「夜間・少人数体制」「初動の遅れ」といった条件であり、火災は場所を問わず、複数の要因が重なることで被害が拡大することを示しています。こうした火災史は過去の話ではありません。今年 1 月にも山梨県扇山で約 396 ヘクタールが焼失する山林火災が発生し、群馬県藤岡市でも数日間にわたり鎮圧作業が続きました。冬の火災は前兆が乏しいことが多く、気づいた時にはすでに延焼が進んでいるケースもあります。



林野火災警報のお知らせバーナー

また、この季節は冬の雪害から、春先の強風・火災・雪崩へと災害が切り替わる移行期でもあります。気象庁の注意報・警報は行動判断に直結する重要な防災情報であり、特に今年から運用が開始された「林野火災警報・注意報」は、火気の使用を控えるなど具体的な行動につながる指標です。

乾燥注意報が出ている日は、すでに火災の危険性が高い状況であるという認識が必要です。火災史、直近の事例、気象情報を結びつけ、「なぜ今注意が必要なのか」を考え、次の被害を減らすための方策を練ることが、減災への重要な一歩となります。